

描いて！作って新聞〇みえ☆

指定校 2 年次 長野県伊那弥生ヶ丘高等学校 宮澤洋祐

(1) 本校の新聞活用 (NIE) の現状

- ・2016 年度 4 月時点では、新聞は図書館においてあり、生徒たちは進路実現にあたり利用している。例えば小論文や面接に関わる内容。

(2) 実践のねらい (育てたい力)

- ・創造力、感性そして知性を伸ばすこと。
- ・もの作りを行う上でのプロセスの重要性。
- ・共同制作の面白さと何が大切かを学ぶ。

(3) 研究概要

今年度 2 年生美術の授業でスタートした新聞を使った取組「描いて作って新聞〇みえ」は、時間はかかりましたが何とか形として新聞を表現することが出来ました。完成に至るまで、生徒たちは新聞から多くの発見と個人での創造、グループ内での創造と協力、刺激を受け合いながら新聞を美術作品へ転換するという難しい課題にチャレンジしたと感じています。完成までの道のりを簡単に報告させていただきます。

日頃新聞を目にしない生徒、その生徒たちに美術の授業を通して新聞とは何か、新聞は何を伝えようとしているのか、さらには美術表現を通して新聞の素晴らしさ、良さ、形として表現することでわかりやすさを追求できないかこの単元はスタートしました。一番の目標は、新聞を日頃読まない、見ない生徒たちが美術という形をもった造形物＝美術新聞から今まで築かないことを発見し、そこからイメージできることは何か、そして新聞の面白さ、大切さに気付いてほしいことでした。

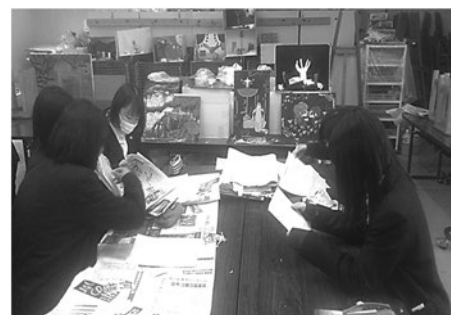
まず、1 講座 20 人前後を 3 グループに分け、各グループの担当新聞を決めました。新聞は今年の 9 月 1 ヶ月分を題材として用いました。信濃毎日新聞、朝日新聞、中日新聞の三社を選びました。グループに分かれ、最初に行ったことは各新聞の特徴を掴むことでした。文章から特徴を掴み、イメージを膨らませることは昨年 1 年生のときから意識させたことでしたので生徒たちは私が何を言いたいかわすぐに理解してくれたが新聞には様々なジャンルの記事があり、それを読むだけでなく理解しながら進めることは大変なことでした。しかしこのプロセスを組んでいくことが大切と常に言っています。ここでの工程は、特徴を掴むことであり各新聞のテーマそして大枠のイメージを考え作らせることです。もの作りで一番重要なところです。各班とも新聞の特徴を丁寧に読み、見ることで拾い出しました。11 月上旬には NIE 推進協議会の事務局長にご指導を受けさらに見えなかった特徴を知ることでもでき、テーマを考える、そしてイメージを広げる上でのキーワードを沢山拾い上げることができました。特徴を掴むことの中には、様々なジャンルの記事がある新聞、だが各社新聞によって何を一番伝えたいのか、伝えているのかの違いがあり、それに生徒たちはいち早く気づけたことは表現する上で大切なことであった。ここでやっと各グループテーマそしてそこからのイメージをデザイン画として描く準備が整いました。

美術作品としての表現方法として私が選んだのはオブジェでありそれかなりの大作でした。たまたま障子の木枠やふすまが手に入ったのでそれを用いて屏風のような作品で新聞を美術表現しようと考えました。そのことも生徒たちには提案しました。

特徴を掴む中でおのずと生徒たちが発見したことは、新聞によって様々なジャンルがあり伝えるデザイン方法が違い、何をメイン 1 面にしているかなど見えてきた。もちろんその日その日の大きな出来事、事件など共通している記事はあるがどの面に何をもってきているかなど違うはあった。そこで、グループ内で重要と思えるジャンルをいくつか絞り出し、担当ジャンルを決めることをした。必ず一人一人責任をもって制作するためであった。



ここで重要なことは、ただ単に担当のジャンルをオブジェとして制作することではない。一番は特徴の中から考え出したテーマのもと様々な記事の表現が生み出されないといけないということだ。常にテーマそしてその趣旨を考えデザイン案を考えさせることを意識させました。



新聞からテーマ・ジャンルを読み取りイメージへ

少しははじめに戻りますが、一番重要なテーマとその趣旨ですが、生徒たちはとてもユニークそしてよくぞ新聞から読みとったというテーマ名を考えました。信濃毎日新聞は「LINK」、中日新聞は「普段着の型紙」、朝日新聞は「ドラえもん」などなど生徒独自の感性から導かれたものばかりでした。「LINK」は4つの単語の頭文字から来ています。L は、Local (ローカル)、I は、International (インターナショナル)、N は、Nature (ネイチャー)、そして K は、Know (知る) です。信濃毎日新聞は、地域密着の新聞であり、それだけではなく日本、世界にリンクした新聞だと読み取ったのです。

「普段着の型紙」は市民の声がとてもよく反映されていて、普段着のようにやさしいイメージがする中日新聞からのテーマを考えました。どの班も本当に素晴らしいと感心しました。

さて、各担当のデザイン案が決まり、グループでそれを一つの作品にするためデザイン案をもちより 1 枚の最終デザイン画を考えました。ここでの問題は、美術の得意な生徒の考えが先行してしまうことでした。担当ジャンルがあるのでそのデザインを採用することを意識させました。また、美術作品を作る上で大切なこと、それは何がメインでそのメインを引き立てるためにどんな周りが必要なのかを考え制作することでした。これは、採用した 9 月の新聞を客観的に読み取

ることで自然に導き出させます。そのメインを何に、そのための周辺をどうするか最終デザイン画を各グループ考えました。また障子の木枠、ふすま以外の材料はどのようなものが必要になるか、何を使うことでみんながイメージしたデザインに近づけるかも考えさせました。

ここまででかなりの時間を費やしました。しかし、もの作りとはこの時間が一番大切なことだと考えています。プロセスをおって深く物事を導き出すことにより創造力、感性培われ、そしてそれに必要な知識が必要と感ずることができると考えています。今回新聞という題材でのチャレンジはこのことをより深く考えさせられたのではないのでしょうか。

さて、ここからやっと材料を使って各グループデザイン画をもとに制作に入りました。



御嶽山噴火から2年後を表現



市民の温かな手作り料理

それぞれがテーマのもと担当ジャンルを自分が思い描いたイメージに近づけるよう様々な材料を選択、工夫しながら制作が進みました。

ある程度パーツパーツができてくると障子の木枠を実際に使いながらの展開に入ります。

組み立てが進めば進むほど大きなテーマ、9月の新聞のテーマそしてイメージを忘れてしまいがちになり、そこだけ意識させることを考えました。あとは、生徒たちの責任のもと完成を目指すのみとなりました。



障子の木枠にスライド式のドアを



御嶽噴火から2年経過した様子を表現

(4) 研究のまとめ

本校の生徒たちは大変まじめで勉強熱心な生徒が多い。しかし、枠にはまったことは得意で器用に熟すのだが、創造力を伸ばす課題になると弱い。この新聞を使った单元では地域、日本そして世界その他様々な記事そして新聞のレイアウトなどの構成から創造力そして感性、さらには知識を盛り込み考えないとできないと思う。その点で今回生徒たちには本来力があること、プロセスさえ指導してあげれば素晴らしい表現力を発揮することがわかった。



信濃毎日新聞「LINK」



信濃毎日新聞
「Local coherence」



朝日新聞「未来を作る新聞」



朝日新聞「ドラえもん」



中日新聞「中部バリアフリー」



中日新聞 「普段着の型紙」

(5) 残された課題

今回、信濃毎日新聞、朝日新聞、中日新聞を教材にしての単元で、美術的な視点から生徒たちと作品を制作した。新聞をより深く理解しながらのプロセスを踏んだが、モチーフとして新聞がそこにあり、そのモチーフを利用したと言えそうなる。そこから生まれた生徒たちの作品はどれも素晴らしいものだ。しかしもう一段階上の表現を考える必要があるように感じている。来年度は、二年目となる。新聞をモチーフとして参考にすることはよいが、自分たちの新聞を美術的な表現により作り上げることができたらと今は考えている。時間が必要ですが・・・。